

連続講演会5

The Art Research Center Lecture Series
: A Young Researchers' Project

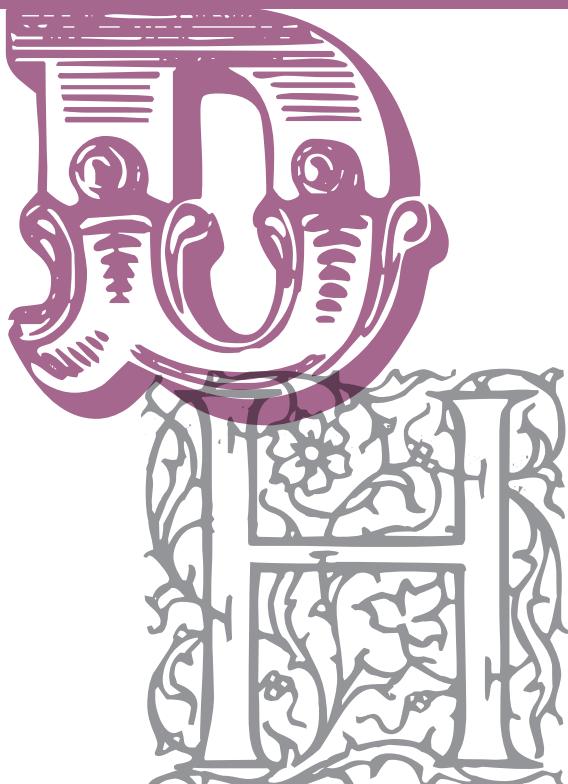
招聘講師 × 若手研究メンバーによる事前ミーティング

※一般には非公開

2010年12月9日(木) 15:00-18:00

立命館大学 アート・リサーチセンター 多目的ルーム

デジタル・ヒューマニティーズのいま 人文学研究のいま



2010年12月10日(金) 13:00-17:30

立命館大学 アート・リサーチセンター 多目的ルーム

招聘講師 山田太造／人間文化研究機構・特任助教

小林雄一郎／日本学術振興会特別研究員

神野 潔／武蔵野学院大学・専任講師

北川智子／College Fellow, Harvard University

NOW!

デジタル・ヒューマニティーズ(以下、DH)の目的には、異分野との連携や協力を図ることが含まれている。しかし、一方ではこれと反対に、DHという分野内で領域ごとの細分化が進んでいるとともに、外との関係でも孤立化しつつあるのではないか、と感じることがある。本拠点においても、他の研究班が行っていることをなかなか理解できず、つい批判的になってしまうことがあるが、これは DH という分野内における細分化の一例ではないだろうか。また、現状では、DH における人文学研究は、従来のオーソドックスな人文諸学分野に対してあまり影響力を持っていない。これは DH が外との関係で孤立化している一例かと思われる。

ここ数年の間に日本でもデジタル・ヒューマニティーズという言葉が使われるようになり、学問としての内実がつくられてきた。しかし、分野内の細分化・外部との関係における孤立化は、従来の学問の枠組みを超えて、研究者間での率直な意見の交換ができていないことをまさに示しているのではないだろうか。

そこで、外部の若手研究者を招いて議論することを通じ、DH に対する拠点内外からの意見を収集し、DH の現状を改善するきっかけとするのが、本企画の大きな意図・趣旨である。

デジタル・ヒューマニティーズのいま 人文学研究のいま

[プログラム Program]

12:30 ~	受付開始
13:00 ~ 13:15	はじめに 一企画趣旨説明ー
13:15 ~ 15:45 (休憩30分を含む)	若手研究者・講演 各30分(質疑応答を含む) ① 史学研究をいかに支援するか 一歴史情報の生成・管理と利活用の支援方法 山田太造(人間文化研究機構・特任助教) 司会:岡本隆明(拠点PD) 情報学を専門としながら、東京大学史料編纂所において歴史学研究者とともに働いた経験をもつ山田氏からは、史料編纂所の人たちがおこなっている研究がどのように見えたのか、それとは反対に自分の研究が史料編纂所の人たちにはどのように受け取られていると思っていたのか、ということをうかがい、情報学研究と人文学研究との協働・そこから見えてくる DH の将来についてお話しいただきます。 ② 言語研究における人文学と情報学の連携—コーパス言語学と自然言語処理を例に 小林雄一郎(日本学術振興会特別研究員) 司会:岡本隆明(拠点PD) 小林氏は、DH の中心的な研究分野といえるコーパス言語学・自然言語処理が専門です。そのような立場からは、同じ DH を標榜する他の人文学研究について、どのように見えるのか、どこが同じでどこが違うのか、意見・感想をうかがい、今後の DH 像の展望についてお話しいただきます。 ③ 日本中世史研究とデジタル技術 神野 潔(武蔵野学院大学・専任講師) 司会:花田卓司(拠点PD) 神野氏は、法学部・法学研究科出身の日本中世法の研究者で、いわば社会科学をバックグラウンドに人文学である「日本史学」を研究されています。その経歴・視点から、本拠点や他の機関等で展開している人文科学、特に日本史学など歴史学におけるデジタル利用やその環境について、あるいは、その有効性や将来像などについて、ご意見を伺いたいと思います。 ④ Narrating the Past with New Media:「バーチャル京都」を使ったハーバード大学の日本史講義 北川智子(College Fellow, Harvard University) 司会:塚本章宏(日本学術振興会特別研究員) 北川氏は、カレッジフェローとして、ハーバード大学の日本史の講義をいくつか担当されています。我々のプロジェクトで取り組んでいる「バーチャル京都」を、その講義において教材として取り上げて頂きました。文系の日本史の授業において、最新の技術で作成された3次元都市モデルをどのように利用されたのかについて、ご報告をして頂きます。これをきっかけに、ハーバード大学での人文学の授業・研究におけるデジタル技術の利用の現状や、日本と米国の人文学の違いについても、話題を広げていきたいと思います。
16:00 ~ 17:30	ディスカッション(1時間30分)

[招聘講師 Profiles]

山田太造(やまだたいぞう)

学位:博士(情報学)(2005年3月)

人間文化研究機構・本部・特任研究員(特任助教)

研究分野:情報学基礎・計算機システム・ネットワーク・メディア情報学・データベース、図書館情報学・人文社会情報学

研究分野キーワード:分散システム、問合せ処理、メタデータ、歴史情報

研究テーマ:史料学研究支援のためのアノテーション管理基盤に関する研究

主要論文:1) Kenro Aihara, Taizo Yamada, Noriko Kando, Satoko Fujisawa, Yusuke Uehara, Takayuki Baba, Shigemi Nagata, Takashi Tojo, Tetsuhiko Awaji, and Jun Adachi "Owlery: A Flexible Content Management System for 'Growing Metadata' of Cultural Heritage Objects and Its Educational Use in the CEAX Project" the 9th International Conference on Asian Digital Libraries (ICADL 2006), Kyoto, pp.22-31, Nov 2006

2) 山田太造、井上聰、遠藤珠紀、久留島典子「日本史史料における翻刻データの管理と編集支援」第9回情報科学技術フォーラム(FIT2010)、九州大学伊都キャンパス、N-013, 2010年9月

3) 山田太造、横山伊徳、綱川歩美、高橋典幸、林譲「採訪史料管理システム」人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん2010」、2010年12月(採録予定)

小林雄一郎(こばやしゆういちろう)

2007年3月 法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻博士後期課程 単位取得退学

大阪大学大学院 言語文化研究科 言語文化専攻、日本学術振興会特別研究員・DC2、

壇南大学外国語学部(英語)・非常勤講師

研究分野:コーパス言語学、自然言語処理、文体論、談話分析、第二言語習得、英語教育

研究テーマ:学習者コーパス研究、多変量解析を用いたテクスト分類機械学習を用いた学習者の習熟度別、コーパスに基づく談話分析・文体研究

主要論文:1) Yuichiro Kobayashi & Kenji Kitao "Comparing graded readers and authorized English language textbooks in junior and senior high schools: From the viewpoint of vocabulary and readability." Journal of Culture and Information Science, 5, pp.1-14, 2010

2) 小林 雄一郎「NS/NNS テキスト分類モデルに基づく日本人英作文の特徴抽出」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集—デジタル・ヒューマニティーズの可能性、pp. 261-268, 2009 年

3) Yuichiro Kobayashi "Profiling metadiscourse markers in native and non-native English." Lexicon, 39, pp.1-17, 2009

神野 潔(じんのきよし)

最終学歴:2005年3月 慶應義塾大学大学院法学研究科 公法学専攻後期博士課程 単位取得退学

武蔵野学院大学国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科・専任講師

研究分野:日本法制史

研究テーマ:寄進状・売券・譲状等を素材とする、中世日本における契約法・相続法の研究。足利尊氏寄進状を素材とする、「公」と「私」の概念に関する研究。「熊谷家文書」を素材とする、封建制の日欧比較法史的研究。

主要論文:1) 神野潔「鎌倉幕府の寄進安堵について」古文書研究, 第62号, 2006年

2) 神野潔「寄進状の効力—鎌倉御家人寄進状における担保文言の検出と分類—」年報三田中世史研究, 第13号, 2006年

3) 神野潔「足利尊氏寄進状の基礎的考察」法学政治学論究, 第54号, 2002年

北川智子(きたがわともこ)

最終学歴:Ph.D. East Asian Studies, Princeton University, 09/2009

College Fellow, Harvard University, Department of East Asian Languages and Civilizations

研究分野:Medieval Japanese History

研究テーマ:History of Mathematics, gender and history of science.

主要論文:1) (Trans.) Tomoko Kitagawa "Reconsidering life in the nunnery: Ritual, devotion, and social life at medieval Hokkeji," by Professor Lori Meeks, University of Southern California, In The Power of Ritual, Hōzōkan, Apr 2010

2) Tomoko Kitagawa "Conversion of Hideyoshi's Daughter, Gō" Journal of Japanese Religious Studies, vol.34, no.1, pp.9-25, 2007

3) (Trans.) Tomoko Kitagawa "Book Review: Richard Bowring, The Religious Traditions of Japan: 500-1600," by Professor Lori Meeks, University of Southern California In General Studies of Japanese Buddhism, vol.5, pp.87-94, 2007

